

複雑な問題を有する事例に対する老人看護専門看護の視点に基づくケアの成果 その1

－老人看護専門看護師教育実習の過程から－

相場健一 1) 3) 河端裕美 2) 高橋陽子 2) 内田陽子 3)

- 1) 公益財団法人脳血管研究所介護老人保健施設アルボース
- 2) 公益財団法人脳血管研究所美原記念病院
- 3) 群馬大学大学院保健学研究科

【目的】老人看護専門看護師(CNS)教育実習において、複雑な問題を有する事例に対して、CNSに求められる6つの役割(実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究)に基づいて対応し、自宅退院を可能となった症例を報告する。

【倫理的配慮】対象者とその家族に本研究に参加することについて説明し同意を得た。また、病院長から研究の実施について承諾を得、個人情報保護について配慮した。

【実習内容】2013年4月～5月の期間、A病院回復期リハ病棟で実習を行った。指導者から提示された事例に対して、CNSに必要な理論・知識を活用し、ケアプランを立案、多職種と実践し、アウトカム評価を行った。

【事例紹介】B氏、80歳代女性。右中大脳動脈アテローム血栓性脳梗塞の診断で入院。急性期病棟から第19病日、回復期リハ病棟に転床した。意識は傾眠状態であり、認知機能低下、左半側空間無視、左片麻痺を呈していた。B氏は自宅退院を希望していたが、持続性の下痢、およびこれに伴う肛門周囲のびらん、膀胱留置カテーテル、経管栄養など、在宅復帰する上に障害となる多くの問題を有していた。

【問題の明確化と要因分析】1. 下痢：腸管浮腫、腸内細菌叢の変化、濃厚流動食の高い浸透圧。2. びらん：皮膚バリア機能の破壊。3. 膀胱留置カテーテル：神経因性膀胱による尿閉。4. 経管栄養：嚥下機能障害、意識混濁。

【ケアプラン実施とアウトカム評価】1. 下痢：食事内容を変更し、下痢は改善。2. びらん：スキンケアを見直し、びらんは治癒。3. 膀胱留置カテーテル：自然排尿を試み、自尿を再獲得。4. 経管栄養：経口摂取訓練を実施し、経口摂取可能。その後、B氏は自宅に退院した。

【考察】CNSは6つの役割を果しながら、認知機能の低下した患者の持つ複雑な問題・要因を明らかにし、適切なケアプランを作成・実践し、アウトカムを高めることに貢献できる。